

どこでも使える

変形ボックス



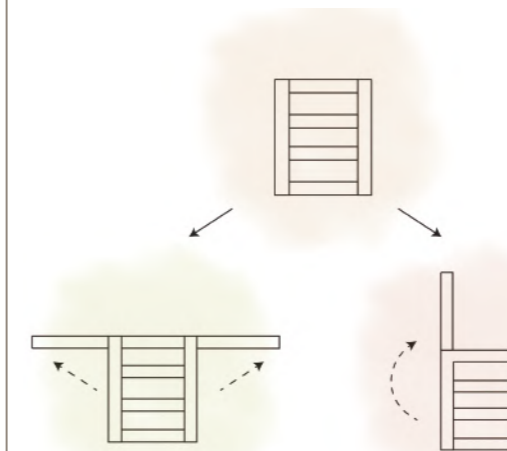
作品概要

新型コロナウイルスによって、テレワークが推奨されるようになった。テレワークは、オフィスで仕事をするという固定概念を覆した。これはワーケーションなどにも言え、自宅やオフィスという場所にとらわれずにどこでも作業することこそがニューノーマルであると考えた。

仕事をするためという1つの機能だけでなく、ベンチや子どもが工作やお絵描きをする机、ガーデンテーブル、道路空間活用の社会実験など様々な用途に合わせて組み替えることができる机を提案する。この机は持ち運ぶことができるため、家の中に限らずオフィスや庭など、どこでも自由に置くことができる。さらに、板をボックスにひっかけることで本や観葉植物などを置ける棚として機能する。

机の使い方

1. 変形



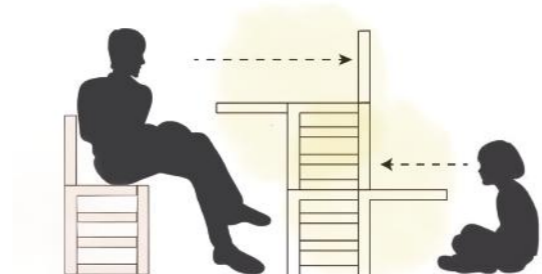
ボックスを開くことで広い机やベンチなど用途に合わせて形を変えることができる

2. どこでも使える



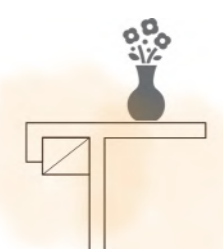
350×700のボックスは持ち運びができ、室内外問わずどこでも使える

3. 目線の違い



ボックスを組合せて目線の違いを生み出す

4. ひっかけ棚



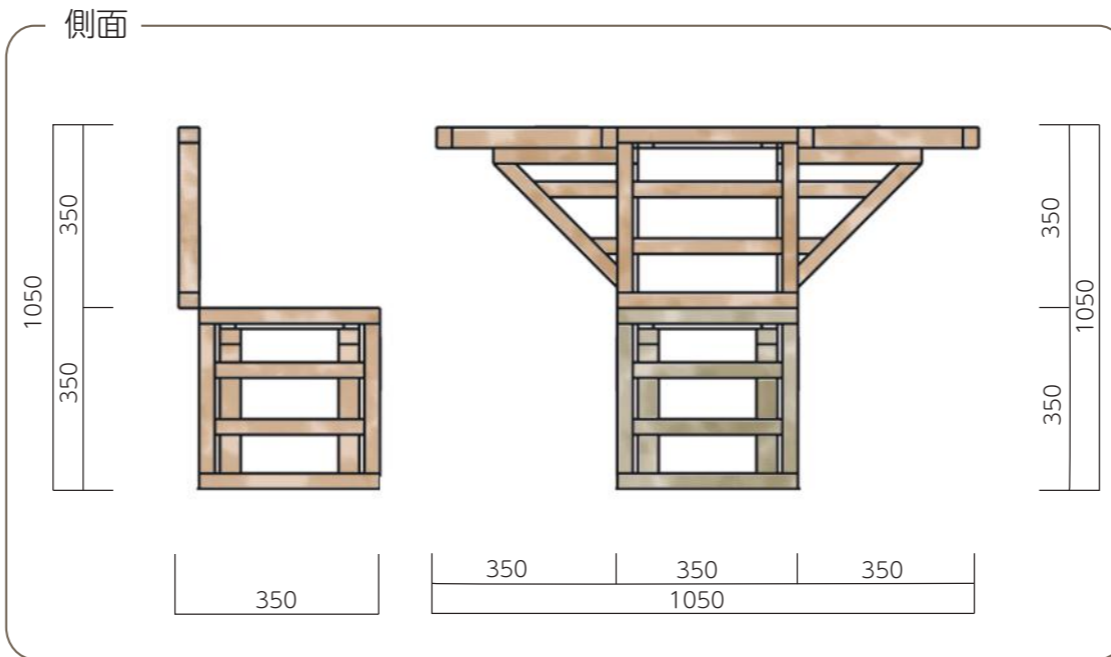
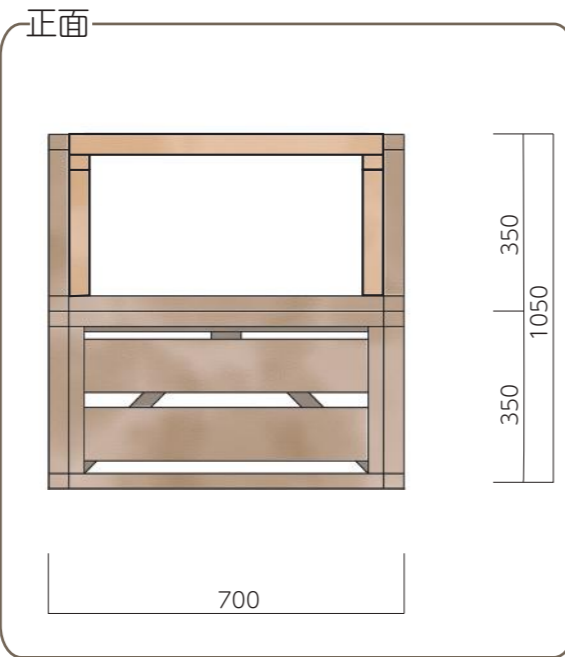
好きなところにひっかけて棚としてフレキシブルな使い方ができる

必要部材

立面図 1:15

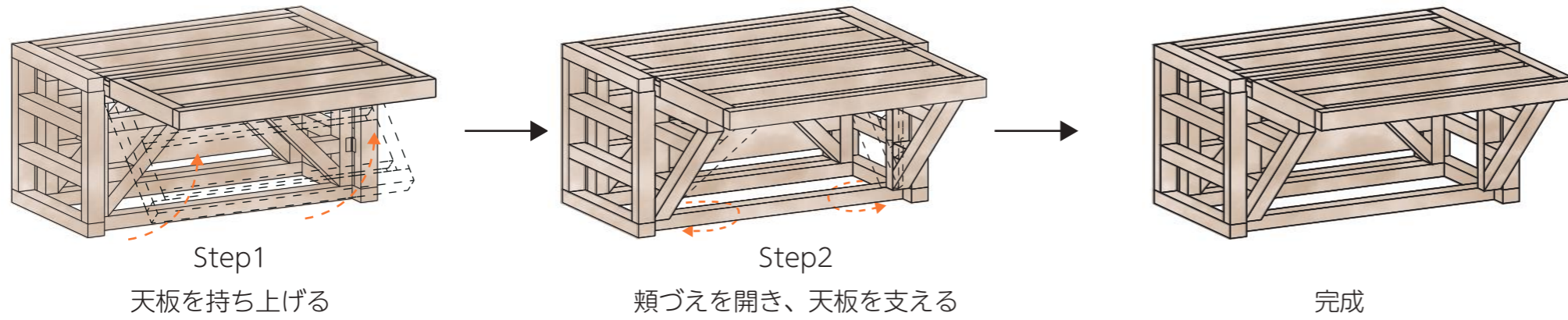
パターン

$560 \times 105 \times 30$ ×4 105 560	$290 \times 30 \times 40$ ×12 30 290
$560 \times 90 \times 30$ ×2 90 560	$280 \times 30 \times 40$ ×4 30 280
$620 \times 30 \times 40$ ×8 30 620	$250 \times 30 \times 40$ ×4 30 250
$350 \times 30 \times 40$ ×4 30 350	$210 \times 30 \times 40$ ×2 30 210
$353.5 \times 30 \times 40$ ×4 30 293.5 353.5	$172.5 \times 30 \times 40$ ×4 30 142.5 172.5
$62.5 \times 30 \times 40$ ×4 30 62.5	



組み立て図

天板の展開方法



複数ユニットの組み合わせ方法

